



パイナップル（生鮮）の輸入

- 神戸港は全国港別で 数量・金額ともに 4 年連続1位！
- 2025 年の輸入額は神戸港・全国ともに過去最高！

1. はじめに

今年も暑さの厳しい季節が巡ってきます。食欲不振に陥りがちなこの時期を、季節のフルーツで乗り切るという方も多いのではないのでしょうか。

そんな時にぜひ取り入れたいのが、爽やかな甘酸っぱさが魅力のパイナップルです。パイナップルは、美味しいだけでなく、疲労回復や体調維持を助けるビタミンや、水分バランスを整えるミネラル、さらに消化をやさしくサポートしてくれるブロメラインという酵素を豊富に含んでおり、夏バテ対策にも役立つ栄養たっぷりの果物です。

パイナップルと聞くと、ある年代以上の方は缶詰のシロップ漬けを思い浮かべるかもしれません。しかし、生鮮パイナップルは冷凍や缶詰などの加工品に比べて輸入量のはるかに多く、近年では果物店やスーパーに丸ごとのものや食べやすくカットされた商品が並び、売り場でも存在感を増しているようです。



実はパイナップルは、2025年に日本へ輸入された生鮮果物の中で、キウイやオレンジといった果物を上回り、バナナに次ぐ第2位の輸入量を誇っています。また、神戸港はパイナップルの主要な輸入港として、数量・金額ともに全国港別で4年連続第1位を記録しています。

今回の特集では、デザートから料理まで活躍の場を広げる「パイナップル」を取り上げます。

- ・ 本資料でいう「パイナップル」は、輸入統計品目表の 0804.30-010 の「パイナップル(生鮮のもの)」を集計したものであり、冷凍や缶詰などの加工品は含まれていません。
- ・ 本資料における「過去最高」は、比較可能な 1988 年以降のデータを基礎として比較したものです。
- ・ 本資料における 2024 年以前の数値は確定値、2025 年の数値は確々報値です。
- ・ 金額は百万円単位で四捨五入を行っています。

2. 輸入動向

(1) 輸入実績推移

・神戸港、全国の金額は5年連続の伸び！

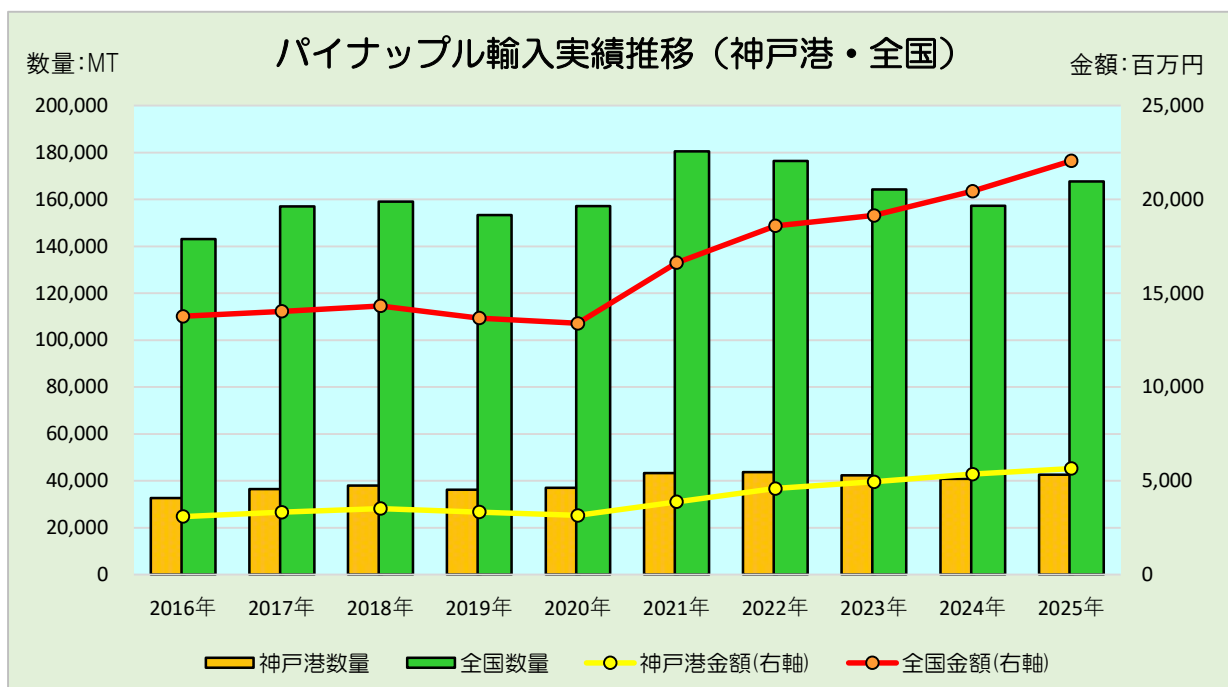
2025年のパイナップルの輸入は

〔神戸港〕 数量 42,638トン、金額 56億5,400万円

〔全 国〕 数量 167,631トン、金額 220億5,200万円

となり、神戸港及び全国における輸入金額は過去最高を記録しました。

神戸港及び全国とも、近年は輸入数量が横ばいで推移している一方、輸入金額は2021年以降、5年連続で増加しています。業界によりますと、産地での天候不良による供給不足に加え、海上運賃の上昇やコンテナ不足などによる輸送コストの増加、さらに近年の円安の進行による為替の影響など、複数の要因が重なり、全体として数量以上に輸入価格の押し上げにつながったとのこと。



【コラムその1】パイナップルは松ぼっくり！？

パイナップルという名前は、「松(パイン)」と「リンゴ(アップル)」が合わさった不思議な言葉ですが、実はおもしろい由来があります。語源について諸説ありますが、もともと英語の「pineapple」は、果物ではなく「松ぼっくり」のことを指していました。ここでいう「pine」は松、「apple」は果実を意味しており、当時は「松に関係する実」というイメージから「pineapple」という名前が生まれました。

その後、ヨーロッパの人たちが南国で今のパイナップルに出会うと、その見た目が松ぼっくりにそっくりだったことから、この名前がそのまま使われるようになりました。その結果、本来の意味であった松ぼっくりは、別の呼び方に変わり、現在では

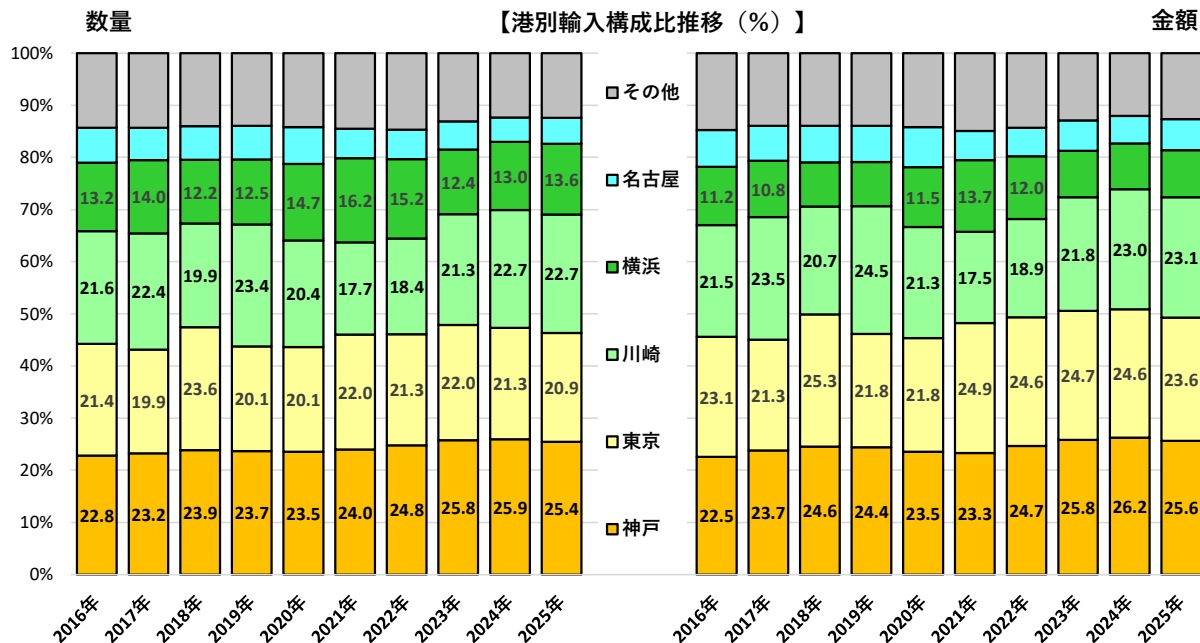
pine cone = 「松(pine) + 円すい(cone)」と呼ばれています。



(2) 港別輸入実績

・神戸港は全国港別で 数量・金額ともに 4 年連続 1 位！

2025 年の全国における神戸港の輸入シェアは、数量が 25.4%、金額が 25.6%を占め、ともに全国 1 位となっています。神戸港の金額は 2022 年から 2025 年まで 4 年連続、数量は 2014 年から 2025 年まで 12 年連続全国 1 位となっています。



神戸港が選ばれる理由としては、関西圏における大きな消費需要を背景に、交通アクセスの利便性が高いことが挙げられます。加えて、冷蔵倉庫やリーファーコンテナ対応設備が充実しており、青果物に強い通関業者や植物検疫体制が整備されているため、通関をスムーズに行える点も強みです。

周辺にカット加工工場や青果卸売市場が立地しており、産地からの定期航路が充実していることも神戸港の優位性につながっています。

【コラムその2】日本のパイナップル生産

パイナップルは日本国内でも栽培されており、そのほとんどが沖縄県で作られています。パイナップルの育成には、高温多湿の気候、十分な日照時間、水はけのよい土壌、適度な降雨が必要ですが、沖縄県はこれらの条件に適した地域です。しかし、沖縄でも冬になると気温が下がり、日照時間も短くなるため、パイナップルの生育スピードが遅くなります。

そのため、収穫できる時期は主に春から夏に限られています。

2024 年のデータで日本の生産量は 6,472 トンでした。世界の生産量ランキングでは 1 位がコスタリカで 312 万トン、2 位がフィリピンの 292 万トン、3 位がインドネシアで 274 万トンの順となっています。

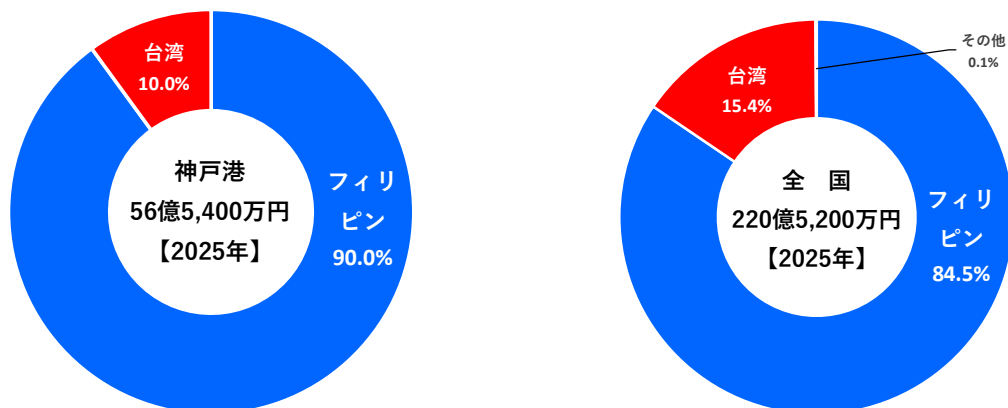


出典:FAOSTAT(2024 年) ※世界食糧・農林水産統計データベース

(3) 国・地域別輸入実績

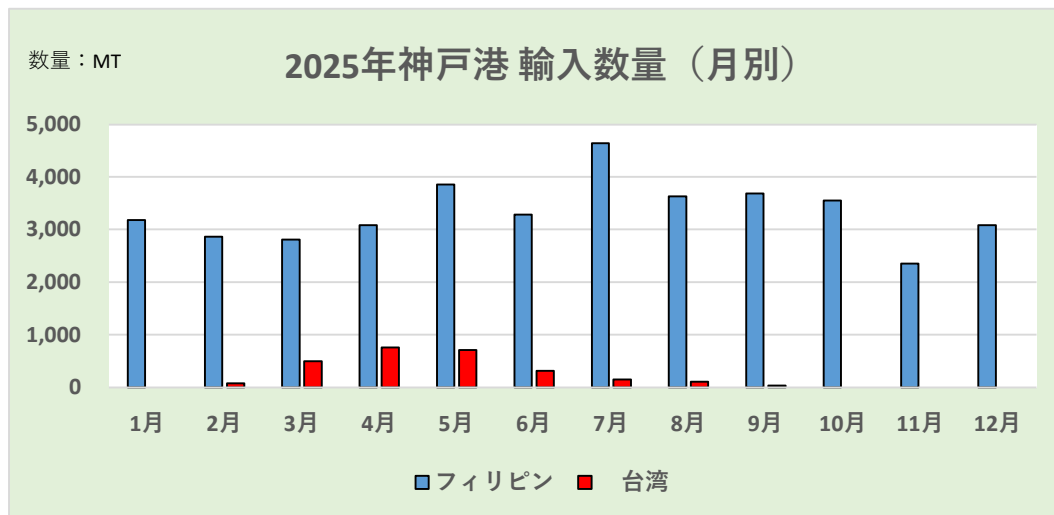
・神戸港、全国ともにフィリピンと台湾に集中！

2025年は、神戸港へフィリピン、台湾の計2カ国・地域から、全国では、フィリピン、台湾のほか、マレーシア、ケニア、インドネシアなど計7カ国・地域からの輸入がありました。



パイナップルは東南アジアや中南米など世界各地で生産されています。しかし、日本へのパイナップルの輸入は、神戸港・全国ともにフィリピンと台湾に集中しています。これは、フィリピンと台湾が日本に近く、輸送時間が短いため、鮮度を保ったまま安定的に届けることが強みとなっているためです。

特に、フィリピンでは、果実を取り扱う大手企業が広大な農地を活用し、日本人の好みに合わせて甘みを重視したパイナップルの大規模栽培を行っています。その結果、年間を通じて安定した供給が可能となり、輸入実績の多さにつながっています。



神戸港の月別の輸入数量を見ると、産地の天候などの影響による変動はあるものの、春から夏にかけて輸入量が多くなる傾向があります。

これは、ゴールデンウィークや夏休みなどの行楽シーズンに加え、お中元やお盆などの贈答用需要、カットフルーツ需要の増加に対応するためと考えられます。

一方、冬場は需要がやや落ち着くものの、フィリピンから年間を通じて安定した供給が行われているほか、カットフルーツや外食産業向けなどの需要もあるため、冬季でも一定量の輸入が継続されています。

また台湾については、収穫期が主に3月から6月であることから、この時期に輸入が集中しています。

パイナップルは、収穫後に追熟して甘くなる果実ではありません。そのため、おいしさを保つには「収穫後の鮮度管理」が非常に重要です。品種ごとに最適な温度で輸送することで、採れたての甘さやみずみずしさが維持できます。さらに、最新のコールドチェーン技術の導入により、産地から店頭まで安定した品質管理が可能になっています。また、箱単位だけでなく産地によって1玉ごとに管理できるトレーサビリティ体制も整備されており、万が一問題が発生した場合でも、迅速な確認と対応が可能です。こうした取り組みによって、消費者は1年を通じて安心しておいしいパイナップルを楽しむことができるのです。

一方、コスタリカなど日本から遠い産地は、輸送日数の面で不利なため、生鮮品よりも冷凍品やジュースとして日本向けに輸出されています。

また、タイやインドネシアなどの東南アジア諸国も主要なパイナップル生産国ですが、業界によると、日本向けの生鮮パイナップル輸出では、フィリピンのような大規模な供給体制や流通網が十分に確立されていないようです。そのため、これらの国では缶詰やジュースなどの加工産業が発達しており、日本向けに生鮮品よりも加工品として多く輸出されています。その結果、日本の消費者もこれらの国で生産されたパイナップルを缶詰やジュースなどを通じて味わうことができます。



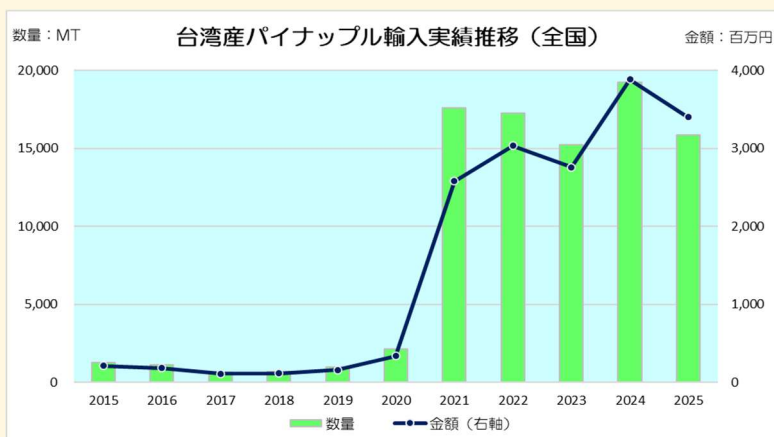
【コラムその3】 台湾産の増加

ここ数年、台湾産のパイナップルの輸入が増えています。

これは、2021年2月末に中国政府が検疫強化の理由で台湾産パイナップルの輸入を停止したことで、苦境に陥った台湾の生産農家を支援しようとする輪が、台湾国内や日本を始めとする周辺国に広がりました。この購買運動は『フリーダム・パイナップル』と呼ばれました。

台湾産のパイナップルは、これまで日本

の主流であったフィリピン産のものに比べ、値段は高めとなりますが、筋が少なく、芯まで甘いことから、コロナ禍でのプチぜいたく志向の高まりを背景に消費者の支持を得て、今まで1%程度であった国内シェアが大幅に伸び、2025年に金額ベースで15%となりました。



3. おわりに

パイナップルは、年間を通じて安定的に輸入でき、加工のしやすさにも優れていることから、業界内でも今後も安定した需要が期待される有望な品目とされています。現在はフィリピン産や台湾産が主流ですが、気候変動リスクへの対応として産地の多角化が求められる中、将来的に有望な産地として、マレーシアやインドネシア、ベトナムなどの東南アジア諸国にも注目しているとのこと。

近年は、健康志向の高まりや「すぐ食べられる手軽さ」へのニーズを背景に、カットパイナップルや冷凍パイナップル、ドライパイナップル、スムージーなど、さまざまなパイナップル商品が増えています。特に、単身世帯の増加やタイパ（時間効率）を重視する人の増加により、多少価格が高くても「包丁を使わなくてよい」「生ごみが出ない」といった利便性が支持され、カットフルーツ市場は大きく成長しています。

業界によると、パイナップルは「そのまま食べる果物」としてだけでなく、手軽でおしゃれに楽しめる食材としても人気を広げており、SNS 映えするカットフルーツの盛り合わせにおいても欠かせない存在となっています。鮮やかな黄色が見た目を華やかに演出するため、カフェメニューやフルーツプレートにも多く利用され、特に若い世代を中心に人気を集めています。



今後、健康志向や手軽さ、見た目の楽しさを重視する消費者がさらに増える中で、パイナップルがデザートや軽食、食事メニューなど、さまざまなシーンでより一層活用されていくことが期待されます。

○本資料を転載するときは、神戸税関の資料に基づく旨を注記してください。

○本資料に関しては、以下にお問い合わせください。

神戸税関調査部調査統計課 TEL 078-333-3065

神戸税関ホームページ <https://www.customs.go.jp/kobe/>



税関イメージキャラクター
カスタム君



神戸税関イメージキャラクター
カスタムちゃん

パイナップルの輸入数値表<輸入統計品目番号 0804.30-010>

◆輸入実績推移										
年	全国				神戸港					
	数量 (MT)		金額 (百万円)		数量 (MT)			金額 (百万円)		
		前年比		前年比		前年比	全国比		前年比	全国比
1988年	138,157	—	9,340	—	37,318	—	27.0%	2,482	—	26.6%
1989年	135,383	98.0%	9,371	100.3%	34,959	93.7%	25.8%	2,346	94.5%	25.0%
1990年	128,250	94.7%	8,300	88.6%	33,140	94.8%	25.8%	2,098	89.4%	25.3%
1991年	137,786	107.4%	7,134	86.0%	36,651	110.6%	26.6%	1,854	88.4%	26.0%
1992年	127,466	92.5%	7,208	101.0%	30,801	84.0%	24.2%	1,650	89.0%	22.9%
1993年	120,963	94.9%	5,837	81.0%	28,905	93.8%	23.9%	1,421	86.1%	24.3%
1994年	113,527	93.9%	5,282	90.5%	27,127	93.8%	23.9%	1,260	88.6%	23.8%
1995年	107,940	95.1%	4,862	92.0%	23,374	86.2%	21.7%	1,016	80.7%	20.9%
1996年	96,618	89.5%	4,860	100.0%	20,437	87.4%	21.2%	987	97.1%	20.3%
1997年	96,087	99.5%	5,517	113.5%	20,019	98.0%	20.8%	1,100	111.5%	19.9%
1998年	84,710	88.2%	4,970	90.1%	16,947	84.7%	20.0%	943	85.7%	19.0%
1999年	89,866	106.1%	5,020	101.0%	18,256	107.7%	20.3%	949	100.6%	18.9%
2000年	100,092	111.4%	5,330	106.2%	20,045	109.8%	20.0%	1,033	108.9%	19.4%
2001年	118,344	118.2%	7,154	134.2%	25,883	129.1%	21.9%	1,383	133.9%	19.3%
2002年	122,871	103.8%	7,697	107.6%	26,528	102.5%	21.6%	1,394	100.8%	18.1%
2003年	122,690	99.9%	7,465	97.0%	26,519	100.0%	21.6%	1,428	102.4%	19.1%
2004年	142,281	116.0%	9,201	123.2%	30,685	115.7%	21.6%	1,849	129.5%	20.1%
2005年	155,426	109.2%	9,800	106.5%	33,388	108.8%	21.5%	2,031	109.9%	20.7%
2006年	152,479	98.1%	9,981	101.9%	32,699	97.9%	21.4%	2,039	100.4%	20.4%
2007年	165,794	108.7%	10,958	109.8%	37,431	114.5%	22.6%	2,247	110.2%	20.5%
2008年	144,464	87.1%	10,288	93.9%	31,730	84.8%	22.0%	2,132	94.9%	20.7%
2009年	143,981	99.7%	10,347	100.6%	31,199	98.3%	21.7%	2,256	105.8%	21.8%
2010年	142,582	99.0%	9,804	94.7%	27,226	87.3%	19.1%	1,892	83.9%	19.3%
2011年	152,864	107.2%	10,142	103.4%	30,627	112.5%	20.0%	2,089	110.4%	20.6%
2012年	174,025	113.8%	11,353	111.9%	40,000	130.6%	23.0%	2,596	124.2%	22.9%
2013年	181,182	104.1%	11,492	101.2%	40,533	101.3%	22.4%	2,656	102.3%	23.1%
2014年	166,295	91.8%	12,382	107.7%	39,129	96.5%	23.5%	3,007	113.2%	24.3%
2015年	150,598	90.6%	13,184	106.5%	36,146	92.4%	24.0%	3,133	104.2%	23.8%
2016年	143,147	95.1%	13,773	104.5%	32,607	90.2%	22.8%	3,101	99.0%	22.5%
2017年	156,962	109.7%	14,035	101.9%	36,439	111.8%	23.2%	3,332	107.4%	23.7%
2018年	158,993	101.3%	14,317	102.0%	37,944	104.1%	23.9%	3,517	105.5%	24.6%
2019年	153,242	96.4%	13,675	95.5%	36,248	95.5%	23.7%	3,335	94.8%	24.4%
2020年	157,033	102.5%	13,390	97.9%	36,947	101.9%	23.5%	3,152	94.5%	23.5%
2021年	180,482	114.9%	16,628	124.2%	43,253	117.1%	24.0%	3,874	122.9%	23.3%
2022年	176,435	97.8%	18,587	111.8%	43,701	101.0%	24.8%	4,584	118.3%	24.7%
2023年	164,143	93.0%	19,150	103.0%	42,295	96.8%	25.8%	4,949	108.0%	25.8%
2024年	157,308	95.8%	20,435	106.7%	40,810	96.5%	25.9%	5,362	108.3%	26.2%
2025年	167,631	106.6%	22,052	107.9%	42,638	104.5%	25.4%	5,654	105.4%	25.6%

年	全国	神戸港		東京港		川崎港		横浜港		名古屋港		その他	
		全国比	全国比	全国比	全国比	全国比	全国比	全国比	全国比				
2016年	143,147	32,607	22.8%	30,683	21.4%	30,940	21.6%	18,863	13.2%	9,584	6.7%	20,470	14.3%
2017年	156,962	36,439	23.2%	31,194	19.9%	35,083	22.4%	22,032	14.0%	9,723	6.2%	22,491	14.3%
2018年	158,993	37,944	23.9%	37,478	23.6%	31,635	19.9%	19,360	12.2%	10,248	6.4%	22,328	14.0%
2019年	153,242	36,248	23.7%	30,783	20.1%	35,813	23.4%	19,137	12.5%	9,901	6.5%	21,362	13.9%
2020年	157,033	36,947	23.5%	31,620	20.1%	32,030	20.4%	23,049	14.7%	11,059	7.0%	22,328	14.2%
2021年	180,482	43,253	24.0%	39,758	22.0%	31,883	17.7%	29,157	16.2%	10,194	5.6%	26,238	14.5%
2022年	176,435	43,701	24.8%	37,554	21.3%	32,507	18.4%	26,817	15.2%	9,973	5.7%	25,882	14.7%
2023年	164,143	42,295	25.8%	36,181	22.0%	34,938	21.3%	20,323	12.4%	8,936	5.4%	21,470	13.1%
2024年	157,308	40,810	25.9%	33,556	21.3%	35,653	22.7%	20,517	13.0%	7,302	4.6%	19,471	12.4%
2025年	167,631	42,638	25.4%	34,977	20.9%	38,112	22.7%	22,760	13.6%	8,313	5.0%	20,831	12.4%

年	全国	神戸港		東京港		川崎港		横浜港		名古屋港		その他	
		全国比	全国比	全国比	全国比	全国比	全国比	全国比	全国比				
2016年	13,773	3,101	22.5%	3,175	23.1%	2,956	21.5%	1,536	11.2%	977	7.1%	2,027	14.7%
2017年	14,035	3,332	23.7%	2,987	21.3%	3,302	23.5%	1,515	10.8%	943	6.7%	1,957	13.9%
2018年	14,317	3,517	24.6%	3,629	25.3%	2,957	20.7%	1,221	8.5%	994	6.9%	2,000	14.0%
2019年	13,675	3,335	24.4%	2,975	21.8%	3,352	24.5%	1,163	8.5%	945	6.9%	1,906	13.9%
2020年	13,390	3,152	23.5%	2,916	21.8%	2,851	21.3%	1,546	11.5%	1,024	7.6%	1,902	14.2%
2021年	16,628	3,874	23.3%	4,144	24.9%	2,912	17.5%	2,283	13.7%	939	5.6%	2,476	14.9%
2022年	18,587	4,584	24.7%	4,578	24.6%	3,507	18.9%	2,237	12.0%	1,015	5.5%	2,666	14.3%
2023年	19,150	4,949	25.8%	4,726	24.7%	4,183	21.8%	1,705	8.9%	1,117	5.8%	2,471	12.9%
2024年	20,435	5,362	26.2%	5,035	24.6%	4,698	23.0%	1,803	8.8%	1,077	5.3%	2,460	12.0%
2025年	22,052	5,654	25.6%	5,212	23.6%	5,086	23.1%	1,999	9.1%	1,315	6.0%	2,785	12.6%

年	全世界	フィリピン		台湾		マレーシア		ケニア		インドネシア		その他	
		構成比	構成比	構成比	構成比	構成比	構成比	構成比	構成比				
2016年	13,773	12,996	94.4%	182	1.3%	18	0.1%	—	—	86	0.6%	491	3.6%
2017年	14,035	12,937	92.2%	110	0.8%	84	0.6%	—	—	178	1.3%	725	5.2%
2018年	14,317	13,358	93.3%	114	0.8%	73	0.5%	—	—	164	1.1%	607	4.2%
2019年	13,675	13,010	95.1%	161	1.2%	30	0.2%	—	—	147	1.1%	326	2.4%
2020年	13,390	12,913	96.4%	338	2.5%	9	0.1%	—	—	72	0.5%	58	0.4%
2021年	16,628	13,950	83.9%	2,579	15.5%	6	0.0%	—	—	92	0.6%	0	0.0%
2022年	18,587	15,547	83.6%	3,034	16.3%	—	—	—	—	6	0.0%	1	0.0%
2023年	19,150	16,354	85.4%	2,762	14.4%	1	0.0%	—	—	23	0.1%	10	0.1%
2024年	20,435	16,482	80.7%	3,887	19.0%	33	0.2%	1	0.0%	17	0.1%	16	0.1%
2025年	22,052	18,624	84.5%	3,405	15.4%	17	0.1%	3	0.0%	2	0.0%	2	0.0%

年	全世界	フィリピン		台湾		ベトナム		インドネシア		コスタリカ		その他	
		構成比	構成比	構成比	構成比	構成比	構成比	構成比	構成比				
2016年	3,101	3,007	97.0%	13	0.4%	—	—	—	—	64	2.1%	16	0.5%
2017年	3,332	3,109	93.3%	15	0.4%	—	—	—	—	124	3.7%	84	2.5%
2018年	3,517	3,322	94.5%	9	0.2%	—	—	3	0.1%	113	3.2%	70	2.0%
2019年	3,335	3,226	96.7%	6	0.2%	—	—	15	0.4%	64	1.9%	24	0.7%
2020年	3,152	3,120	99.0%	9	0.3%	—	—	16	0.5%	6	0.2%	—	—
2021年	3,874	3,643	94.0%	225	5.8%	—	—	6	0.1%	—	—	—	—
2022年	4,584	4,259	92.9%	325	7.1%	—	—	—	—	—	—	—	—
2023年	4,949	4,641	93.8%	308	6.2%	—	—	—	—	—	—	—	—
2024年	5,362	4,685	87.4%	668	12.5%	10	0.2%	—	—	—	—	—	—
2025年	5,654	5,086	90.0%	568	10.0%	—	—	—	—	—	—	—	—